チャイナ　インサイト　第 39 回　2022 年最大の自動車イベントとなった輸入博、各社の状況は？

上海莱弥信息咨询有限公司(インサイツ)　東京事務所　顧問　有田直矢

■輸入博に力を入れる各社の現地 100%子会社

2022 年 11 月 5 日から 10 日まで上海市で開催された第 5 回中国輸入博では、グローバル自動車メーカー15 社が出展した。コロナ再まん延により、11 月の広州モーターショーの中止、延期していた 4 月開催予定だった北京モーターショーの正式中止が立て続けに発表されたことを受け、折しも今回の輸入博は、2022 年の中国における最大の自動車イベントとなった。

中国でのモーターショーが中国合弁会社中心に進められるのに対して、この輸入博は「中国への輸入」という名目で、グローバル自動車メーカー各社の中国現地 100%子会社が主導で取り組めるイベントであり、引き続き世界最大の市場である中国に爪痕を残そうと、自動車各社が力を入れている感がある。

各社が特に力を入れたのが新エネルギー車(NEV)だ。EV はもちろん、FCV が多くなっているのも特徴。トヨタ自動車は引き続き「MIRAI」を出展した他、さらに中国で合弁会社を設立して独自に進める商用車への展開も、燃料電池システム「TL Power 80」等として、大々的に発表した。

また、グローバルで見ればトヨタに次いでやはり FCV に注力しているヒュンダイも「XCIENT Fuel Cell」を発表し、「MIRAI」の競合となる FC 乗用車「NEXO」も中国仕様車として出展した。独ボッシュも独自 FCV システム「FCPM-C132」を出展している。

第 5 回中国輸入博でのトヨタブース。左が中国専用セダン「bZ3」、右が「bZ4x」。提供＝トヨタ中国